

# 社会実装看護創成研究センターが設置されました

2021年4月1日より本学保健衛生学部に「社会実装看護創成研究センター」が新設されました。

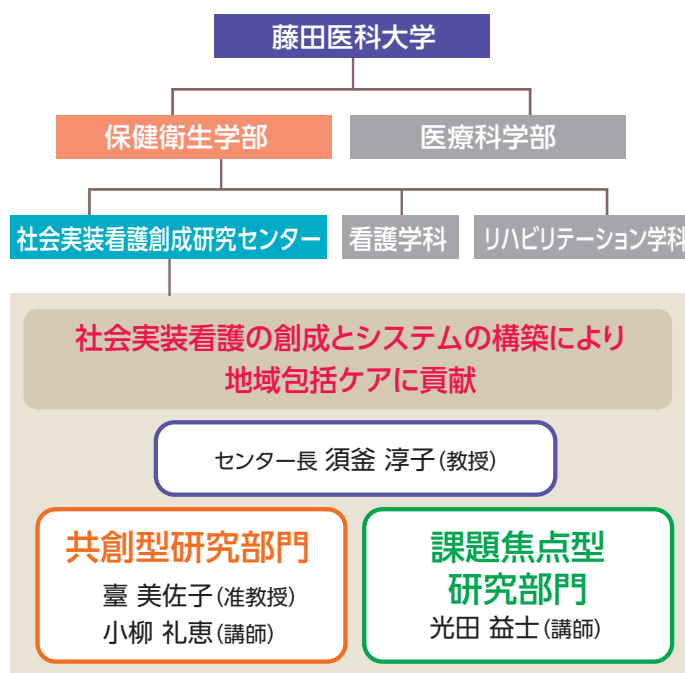
臨床現場の技術革新が進む中、看護領域においてもロボットやICT、AIなどのテクノロジーの有効活用が求められています。一方で、医工連携と異なり、看工連携の社会実装に関する理論および方法論は、未だ確立されていないのが現状です。本センターでは、大学病院や地域包括ケア中核センターと協力し、看護実践の場でこれらの研究を推進するとともに、次世代を担う人材の育成にも取り組みます。

## 組織体制

本センターの体制は、ニーズや課題の抽出、データベース化および実装研究を行う共創型研究部門と、同部門が抽出した課題に対し看護理工学からアプローチする課題焦点型研究部門の2部門で構成。生体・生活情報を導出するシステム構築やデバイス開発を通じて、健康増進や保健・医療、さらには地域包括ケアやまちづくりに寄与することをめざします。



左から光田益士講師、須釜淳子教授、小柳礼恵講師、臺美佐子准教授



## 活動報告

7月3～5日、アジア太平洋地域の創傷・オストミー・失禁管理領域の発展と質の向上を目的に隔年開催されている国際学会「The 9th Asia Pacific Enterostomal Therapy Nurse Association Conference (APETNA)」に参加しました。同学会は、「第30回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会」と合同でオンライン開催され、COVID-19パンデミック下の皮膚・排泄ケアについてさまざまな角度から意見が交わされました。本学からは当センターの須釜淳子教授と臺美佐子准教授がシンポジウムに登壇。「リンパ浮腫患者のアウトカム改善のための最新テクノロジー」をテーマに看工連携についての見解を述べました。



オンラインシンポジウムの様子



国際学会に参加したメンバー